

平成24年度予算に係る再評価結果一覧

【公共事業関係費】
【ダム事業】
【補助事業】

事業名 事業主体	該当基準	総事業費 (億円)	費用便益分析			貨幣換算が困難な効果等 による評価	再評価の視点 (投資効果等の事業の必要性、事業の進捗の見込み、コスト削減等)	対応方針	担当課 (担当課長名)	
			貨幣換算した便益:B(億円)		費用:C (億円)					B/C
			便益の内訳及び主な根拠							
内ヶ谷ダム建設事業 岐阜県	その他	344	559	491	1.1	<p>①事業の必要性等に関する視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・氾濫が想定される区域を含む長良川中上流域内に位置する関市、郡上市等6市1町では、平成12年から平成17年の間で、人口は微増、世帯数は増となっており、人口はほぼ横ばいにある。 ・亀尾島川沿川では、近年、水量の不安定さからポンプ取水の位置をたびたび変更するなど、かんがい用水の取水が困難となっている。 ・現在、生活再建工事中であり、平成23年3月現在で進捗率は約53%(事業費ベース:総事業費340億円に対して) <p>【検証対象ダム事業等の点検】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業費及び工期の点検については、平成15年度の再評価時に算定した事業費、工期を基に、最新のデータ等で点検を行った結果、事業費については約4億円増額、工期については平成37年度完成見込みであることを確認した。また、堆砂計画、過去の洪水実績など計画の前提となっているデータ等を点検した。 <p>②事業の進捗の見込み、コスト削減や代替案立案等の可能性の視点</p> <p>【目的別の検討】</p> <p>「洪水調節」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・河川整備計画において想定している目標と同程度の目標を達成することを基本として、河川を中心とした対策に加えて流域を中心とした対策を含めて治水対策案を検討し、5案の治水対策案を立案し、7つの評価軸について評価した。 <p>「流水の正常な機能の維持」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・河川整備計画で想定している目標と同程度の目標を達成することを基本として、2案の対策案を立案し、6つの評価軸について評価した。 <p>【検証対象ダムの総合的な評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各目的別の検討を踏まえて、検証の対象とするダム事業に関する総合的な評価を実施した。 ・目的別の総合評価の結果が、全ての目的で内ヶ谷ダム案が優位であり、検証対象ダムの総合的な評価は内ヶ谷ダム案が優位と評価した。 	継続	水管理・国土 保全局治水課 (課長 森北 佳昭)		
安威川ダム建設事業 大阪府	その他	1,314	7,188	1,281	5.6	<p>①事業の必要性等に関する視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・氾濫が想定される区域を含む安威川流域の関係市区(東淀川区、吹田市、茨木市、摂津市、高槻市)では、平成12年から平成17年の間で、人口は微増となっており、人口は横ばい傾向にある。 ・安威川流域では、近年でも平成17年を以て、瀬切れによる濁水被害に幾度も見舞われている。 ・現在、生活再建工事中であり、平成23年3月現在で進捗率は約65%(事業費ベース) <p>【検証対象ダム事業等の点検】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業費及び工期の点検については、平成19年4月に変更した全体計画の事業費、工期を基に、最新のデータ等で点検を行った結果、事業費に変更がないこと、工期については概ね7年後の完成見込みであることを確認した。また、堆砂計画、過去の洪水実績など計画の前提となっているデータ等を点検した。 <p>②事業の進捗の見込み、コスト削減や代替案立案等の可能性の視点</p> <p>【目的別の検討】</p> <p>「洪水調節」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・河川整備計画において想定している目標と同程度の目標を達成することを基本として、河川を中心とした対策に加えて流域を中心とした対策を含めて治水対策案を検討し、5案の治水対策案を立案し、7つの評価軸について評価した。 <p>「流水の正常な機能の維持」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・河川整備計画で想定している目標と同程度の目標を達成することを基本として、3案の対策案を立案し、6つの評価軸について評価した。 <p>【検証対象ダムの総合的な評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各目的別の検討を踏まえて、検証の対象とするダム事業に関する総合的な評価を実施した。 ・目的別の総合評価の結果が、全ての目的で安威川ダム案が優位であり、検証対象ダムの総合的な評価は安威川ダム案が優位と評価した。 	継続	水管理・国土 保全局治水課 (課長 森北 佳昭)		
石木ダム建設事業 長崎県	その他	285	305	241	1.3	<p>①事業の必要性等に関する視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・氾濫が想定される区域を含む川棚川の流域(川棚町、波佐見町)では、平成17年から平成22年の間で、人口は微減、世帯数は増となっており、人口は減少傾向にある。 ・佐世保市の水道においては、近年でも平成6、17、19年において断水及び給水制限(減圧)が行われるなど、たびたび濁水被害に見舞われている。 ・現在、生活再建工事中であり、平成23年3月現在で進捗率は約49%(事業費ベース) <p>【検証対象ダム事業等の点検】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業費及び工期の点検については、平成19年6月に変更した計画の事業費及び工期を基に、最新のデータ等で点検を行った結果、事業費については変更が無いこと、工期についてはダム本体工事発注後約4年間で完成が見込まれることを確認した。また、堆砂計画、過去の洪水実績など計画の前提となっているデータ等を点検した。 <p>②事業の進捗の見込み、コスト削減や代替案立案等の可能性の視点</p> <p>【目的別の検討】</p> <p>「洪水調節」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・河川整備計画において想定している目標と同程度の目標を達成することを基本として、河川を中心とした対策に加えて流域を中心とした対策を含めて治水対策案を検討し、8案の治水対策案を立案し、7つの評価軸について評価した。 <p>「新規利水」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利水参画者に対し、ダム事業参画継続の意思があること、開発費として変更がないことを確認した。 ・検討主体において、必要量の算出が妥当に行われていることを確認した。 ・利水参画者に対して確認した必要な開発費を確保することを基本として、6案の利水対策案を立案し、6つの評価軸について評価した。 <p>「流水の正常な機能の維持」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・河川整備計画で想定している目標と同程度の目標を達成することを基本として、4案の対策案を立案し、6つの評価軸について評価した。 <p>【検証対象ダムの総合的な評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各目的別の検討を踏まえて、検証の対象とするダム事業に関する総合的な評価を実施した。 ・目的別の総合評価の結果が、全ての目的で石木ダム案が優位であり、検証対象ダムの総合的な評価は石木ダム案が優位と評価した。 	継続	水管理・国土 保全局治水課 (課長 森北 佳昭)		

備間川総合開発事業(タイ原ダム) 沖縄県	その他	72	-	-	-	-	・謝名堂川流域等では、近年でも平成6、10年に被害の大きな洪水が発生している。主な洪水被害としては昭和58年9月の洪水においては、浸水被害41戸、平成6年5月の洪水においては、浸水被害41戸、平成10年10月の洪水においては、浸水戸数5戸の洪水被害が発生している。(※旧中里村全体の被害であり、謝名堂川流域以外も含む) ・また、濁水被害については、謝名堂川水系では、近年でも、平成2、3、6、8、9年に農業用水の取水に支障が生じている。	①事業の必要性等に関する視点 ・氾濫が想定される謝名堂川流域の久米島町では、平成18年から平成22年の間で、人口は減、世帯数は増となっており、人口は減少傾向にある。 ・謝名堂川水系では、近年でも平成9年等に農業用水の取水に支障が生じるなど、たびたび濁水被害見舞われている。 ・現在、用地買収中であり、平成23年3月現在で進捗率は約37%(事業費ベース:総事業費約56億円に対して) 【検証対象ダム事業等の点検】 ・事業費及び工期の点検については、平成20年3月に変更した計画の事業費及び工期を基に、最新のデータ等で点検を行った結果、事業費については約16億円の増、工期については約6年間で完成見込みであることを確認した。また、堆砂計画、過去の洪水実績など計画の前提となっているデータ等を点検した。 ②事業の進捗の見込み、コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点 【目的別の検証】 「洪水調節」 ・河川整備計画において想定している目標と同程度の目標を達成することを基本として、河川を中心とした対策に加えて流域を中心とした対策を含めて治水対策案を検討し、5案の治水対策案を立案し、7つの評価軸について評価した。 「流水の正常な機能の維持」 ・タイ原ダムで流水の正常な機能の維持として確保する計画であった既得かんがい用水の一部について、補給の緊急性が低くなったことが確認された。 【検証対象ダムの総合的な評価】 ・目的別の総合評価の結果、河道改修(引堤)案が優位と評価した。	中止	水管理・国土保全局治水課 (課長 森北佳昭)
-------------------------	-----	----	---	---	---	---	---	---	----	---------------------------

※1:本資料については、検討主体から国土交通大臣に報告された、ダム事業の検証に係る「検証結果の報告書」等に基づき作成している。
 ※2:備間川総合開発事業(タイ原ダム)については、備間川総合開発事業の一部(タイ原ダム)を中止するもの。